

## 久米島町立学校等適正規模・適正配置検討状況

現在、全国的な少子化の進展に伴い、久米島町でも子どもたちに「より良い教育環境」を提供するための学校適正規模・適正配置の検討が進められています。その一環として、小規模校による、集団教育の面で生じる課題を「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より引用いたします。

※紙面の関係により一部分のみの紹介となっています。詳しくは、インターネットで「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」で検索しご覧ください。

### 学級数が少ないことによる学校運営上の課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる

### 教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題

- ① 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる

### 学校規模の標準を下回る場合の対応の目安

小学校	1～5 学級 複式学級が存在	教育上の課題が極めて大きく、速やかに適正規模について検討すべき。
	6 学級	クラス替えができません。将来的な複式学級化の可能性も含め、適正化の適否を速やかに検討する必要があります。
中学校	1～2 学級 複式学級が存在	教育上の課題が極めて大きく、速やかに適正規模について検討すべき。
	3 学級	クラス替えができません。生徒数の減少予測を勘案し、速やかに適正化の適否を検討する必要があります。
	4～5 学級	クラス替えができる学年が限定的です。教育上の課題を整理し、今後の教育環境の在り方を慎重に検討します。

### 検討の際に考慮すべき観点

法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」が標準とされていますが、この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっていることに留意が必要です。

## 比屋定小学校の休校に関するお知らせ

比屋定小学校は、これまで地域の皆さまに支えられながら、子どもたちの学びの場として大切な役割を果たしてきました。

しかしながら、近年の児童数の減少により、令和 8 年度には複式学級（3 年・5 年）の 1 クラスとなる見込みであり、学校運営が困難な状況となっています。

教育委員会では、子ども達が多様な考えに触れ、集団の中で切磋琢磨しながら社会性を育むために必要な適正規模を確保することが、将来の成長にとって不可欠であると判断しました。

このため、令和8年4月1日から、比屋定小学校を一時休校とすることとなりましたので、お知らせします。

お問い合わせ 教育委員会 ☎985-2287